

ましてや、世界を言葉でお造りになった神の御言葉が私たちの心・魂の中に入るなら、私たちは変えられて行きます。聖書によると、全ての人はいエス・キリストの言葉・福音を信じる事によって救われるのです。“神を信じる”とは、どういう風にしたらいいのでしょうか。神の言葉を信じるんです。神そのものを見る事はできません。

しかし、言葉って不思議です。見た事も会った事もないおばあさんの言葉で、永六輔さんがおばあさんに会ったかのような経験をしたように、目で神様を見る事はできないけど、神の言葉を信じる事によって、生ける神と出会う事ができるのです。

そこで今日は、聖書の福音のエッセンスを、一緒に2箇所から考えたいと思います。

最初はローマ人への手紙 8章 34節。イエスが私たちのためにしてくださった事が、3つのポイントにまとめて書いてあります。それは何か、問題意識を持ちながら読んでみましょう。

ローマ 8:34 **だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのためにとりなしてくださるのです。**

イエスが私たちのためにしてくださった事 1. キリストは私たちの罪のために死んでくださった。

私の全ての罪の償いを、あの十字架の上で、ご自分のいのちで成し遂げてくださった。

だれが、私たちを罪ありとするのですか。

この**罪**という言葉、聖書に最もよく出て来る**罪**の原語は“ハマルティア/的外れ”です。

エディプスコンプレックスという言葉聞いた事がありますか？フロイト(1856-1939)が言い出しました。フロイトは天才だけど、変だと思っんですよ。全然同意できないというか、できるところもあるけど。今でもフロイト派はおられますね。エディプスはオイディプスというギリシア神話の王様の名前からで、彼はその神話から自分の心理理論を構築しました。

オイディプスがスフィンクスから謎をかけられます。それに答えられなかったら殺されるんですね。

そのなぞなぞは「朝は4本足、昼は2本足、夜になると3本足になる生き物って、な〜んだ？」

「な〜んだ」って、そんな優しい言い方じゃない。「答えてみよ！」みたいな。

オイディプスが「簡単だ。それは人間だ。赤ちゃんの時はハイハイで両手両足4本で歩き回る。大人になっていくと2本足歩行。しかし、老いると杖に頼って3本足になる。だから答えは人間だ。」正解！

このなぞなぞに正解した者には王位継承が与えられ、その国の王様になるんです。

それで、オイディプスは絶世の美女の王妃イスカステと結婚して(前王ライオスは亡くなっています)、息子2人と娘2人の計4人の子供を得ました。絵に描いたように幸せな生活。

それがしばらくすると、国中に次々に疫病が蔓延し、飢饉が降りかかり、原因不明の死者がどんどん出る。異常気象も起こり、国民は不安になって「なぜこんな事が起こるのか？」

オイディプス王も不安になって神主に聞きます。「なぜこんな事があるのか、神のお告げを聞いてくれ。」ギリシア神話だから、そんなんが出て来るんです。

するとお告げで、「この国にはライオス王を殺した犯人が潜んでいて、罰を受けずに生き長らえている。彼の罪のせいで、この国に幸せが来ないのだ。この国の幸せを望むなら、その犯人を何としても突き止めて、国から追放しなければならない。」

そこで、オイディプス王は異常な執念で犯人捜索をします。結果分かった事は自分。

スフィンクスのなぞなぞのはるか前、オイディプスはある所で1人の人と「道を譲れ・譲らん」で揉めてカーッとなって、その人を殺害したんです。その人はライオス王で、実は自分の父親でした。オイディプスは色んな事情で、幼少時に両親から引き離されて育ったので、自分の出生の由来を知らなかった。まさか父親が王だとは知らずに育っている。

しかし自分がした事は何か？父親殺し。実の母親と姦通して妻にし、子供を4人得て、この国に不幸をもたらしている張本人。それが分かった時、妻になっている母は絶望して自殺しました。オイディプス自身も「なんという事をしでかしてしまったのか！」と、両眼をえぐり出して自分を罰した。だけど、どんなに自分の肉体を痛めつけても、彼の良心の呵責は消えなかった。それに対して、ギリシア神話の神々は何にもしないんです。もうね、ギリシア神話の神って、ほんまイヤになって来ますよ。悲劇が多い。

これはもちろん作り話・神話ですが、なぜこんなトラブルが起こったのか考えると、自分のルーツを知らなかったから。自分は誰の子供なのか？自分の命はどこから来たのか？自分の親は誰だったのか？自分のルーツに無知であった。そして、良かれと思った事が全部裏目に出て、最終的には自滅して行く。

この話が教えるもう1つのポイントは、罪を犯した者には償いが完璧に終わるまで平安が訪れない。償いのない赦しには説得力がない。どんなに自分で自分を罰したとしても、良心を完全になだめる事はできない。

人間のルーツは私たちをお造りになった神様です。罪と言う時、「どんな罪を犯したのか」とそれぞれお考えがあると思いますが、聖書は自分のルーツから離れ・神に反逆し・神を忘れて生きる事、自分の魂の親を忘れて生きる事。これを“的外れの罪”だと語っています。そして、「神なんかいない」と神を消してしまう人生観こそが、この世界の混乱の大きな原因になっていると言うのです。

今年東京オリンピックだったんですよね。私もコカ・コーラ 20本くらい飲みまして。抽選で観戦券が当たるといのがあってね。1回だけ予選まで行った。カヌー……。僕は柔道見たい。僕は中学は柔道部で、高校でもしばらくやってました。自分がやってた競技には関心がありますが、もちろん外れたんですね。

来年に延期になって、私には「今年見るはずのものが1年先に延びた」という事だけですが、これ、アスリートにはめっちゃくちゃキツイ事なんだそうです。今年の夏にコンディションをピークに持って行くように調整してたのに、1年先という事で、今までのトレーニングスケジュール全部台無し。もう1度ピークを持って行くように作り直さないとダメ。見ている者と現にやる者との違い。大変な事だと思います。

オリンピックで、色んな国際競技でも、今厳しく言われているのがドーピング問題ですよ。ドーピングは副作用もあるし、第一不正だし、実力ではない。私も眠くなったら濃い〜コーヒー飲むんですけど、これもある種のドーピング？意思の力で起きているというより、カフェインにべったりみたいな感じがするんですけど。

ある大学の保健学科が日本全国の体育会系の学生にアンケートを取りました。

「もし自分の競技でドーピングすれば絶対に勝てるという事がはっきりしていて、且つ絶対にばれないとしたら、あなたは使いますか？」

ドーピングしたら、例えば4年間出場できないとか、2回連続やると選手生命おしまい、全ての競技会から追放とか、そういうのがあるからやらないけど、絶対にばれず、しかも使えば優勝できる。

「それなら、あなたは使いますか？」過半数が「使う。」

僕は使わへんなあ。それは（自分が）競技者じゃないからです。

スポーツでドーピングするつもりは全然なくても、誰も見てなかったからという事で、ズルをしたり・嘘をついたり・恥ずかしい事をやったり・不正を働いたりという事が1回もないという方、おられますか？

“神は無い”というのがどんな人生観かという、私がやっている事は誰も知らない・ばれないという人生観に通じると思うんですね。

神なんかいない。一生涯の間、自分が思っている事を全て見通している方は存在しない。

そうになると、私たちはブレーキが壊れてしまうんじゃないでしょうか。

これが、この世界の混乱の大きな理由です。

そして一旦自分の罪を自覚した時、どんなに自分を罰しても、本当の意味での平安は来ないんです。

その罪について、神が見てもどこにも罪を見出す事ができないほど完全な赦しを与えるために、イエス・キリストは今から2千年前に十字架で死んでくださった。

だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方がいます。それがイエス・キリストです。

イエスが私たちのためにしてくださった事2. よみがえられた方であるキリスト・イエス

キリストは十字架の上で死んだだけでなく、死後3日目に死を突き破って復活してくださったんです。

十字架については、前回ヨハネの福音書から、十字架の言葉をメッセージさせていただきました。

キリストは十字架上で7つの言葉を語られました。

その内の3つがヨハネの福音書に出て来て、3番目の言葉が「完了した。」

支払い終わった。罪の賠償は完璧に終わった。その宣言をしてくださいました。

それから3日目の記録をヨハネの福音書で見たいと思います。

20章1節から10節くらいの中に“見た”という言葉が3回出て来ます。

日本語ではどれも“見た”と書いてありますが、原本はギリシア語で書かれていて、“見た”はそれぞれ違う単語が用いられているんです。どれも“見る”という言葉だけど、意味が違うんですね。

どう違うのか。そこに注目しながら見たいと思います。

ヨハネ 20:1-10

1. さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。(1回目)

2. それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところに行って、こう言った。「だれかが墓から主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私たちには分かりません。」

「墓泥棒に遭いました。」なぜそんな事が言えるのか？見たんです。何を？

墓には重さ2トンのふたがしてあります。そのふたは勝手に開封されないように、ローマ帝国の命令で

封印されていました。それを勝手に破ると処刑です。そんな恐ろしい事、誰もしないはずだけど、勇敢な泥棒かなんか知らないけど、その大きなふたがなかった。それを私は見た。

この見たはブレポー。視覚によって、ものの形や色や様子を見る。日本語では文字通り“見る”。物理的・表面的に見る。今私は皆さんを見ています。こういう見方。「墓のふたが開いていた。だから誰かが泥棒したんだ」という非常に表面的な事で判断して言っている。

今 NHK の大河ドラマ『麒麟がくる』、主人公は明智光秀（1528-1582）。彼の人生のクライマックスは、何と言っても主君/お方様の信長（1534-1582）を本能寺で討つという事。信長はその時本能寺という寺に泊まっていて、秀吉のすぐそばにいて激励するために、翌日秀吉の所に向かおうとしているんです。完全に油断しているので、従者がわずかに百名くらいしかいないんですよ。光秀は1万3千の兵で、朝6時に本能寺を取り囲んだ。なんぼ信長でも100対13000では勝ち目がない。

後々書かれた信長公記では「人生五十年〜♪」と踊った事になっているけど、実は信長は殆ど抵抗せずに自害してるんです。そして自ら火を放った。あの鬼のような信長、自ら天皇になろう・神になろうとした信長を討った。凄い！次の天下人は光秀か?! となるはずだった…が、1個致命的な失敗をやっている。何か？信長の遺体が出て来ない。

戦国時代1番大事な事は、敵将の首を落として首実検をやるんです。実際の首を検査する。大将の首を切り落としても、それが本当の大将なのかを確認するために、捕虜となった部下や臣下に「お前の親分かどうか、ちょっと見てみ」と。「間違いありません。」それで本当に大将だという事で首実検。首実検の後、さらし首にします。さらし首という事は犯罪人の扱いになるんですね。最低の扱い。

信長は数多（あまた）の戦国武将に対して、散々これをやって来たんです。今川義元（いまがわ よしもと/1519-1560）、桶狭間（おけはざま）の戦いの。もう悲惨。浅井長政（あざい ながまさ/1545-1573）、頭蓋骨に漆（うるし）塗って、金粉まぶして見世物にする。浅井長政は義理の弟ですよ。信長の妹は戦国一の美女と言われたお市の方。その旦那や。信長、今の時代に生きてたら犯罪者です。

自分の遺体が発見されたらどうされるか、信長には分かっていたので、早々に自害して、絶対に見つからないように、寺のどこかの深—い所に埋めさせたと言われている。なので、未だに信長の遺体はない。「信長の墓、見た事あるけど。」あれは秀吉が作ったんです。木で作った信長の像を焼いて炭になったのを位牌として、あのお墓の中に入れてあるんですよ。信長の本当の位牌ではない。これが決め手になりました。

秀吉は中国返しでどーんと帰って来て、本能寺に入って行く前に、光秀ゆかりの武将たちに手紙を書きまくりました。「信長様はまだ生きてるぞ。もし死んだのなら、なぜ光秀は首実検をしないのか。当たり前だ。できないんだ。今信長様は京都に潜伏しておられるのだ。」生きてる事にしたんですね。あの信長が生きていると思ったら、光秀ゆかりの武将たちも光秀になびく事は出来なかった。だって、信長が盛り返して来たら、今度何されますか？

遺体が出て来なかった。それを「まだ生きている」と言うのは秀吉の詭弁だったのですが、その可能性がゼロではないというので、光秀がこの人とこの人は動いてくれるだろうと思っても、皆ガッチガチに

固まってしまって、光秀側に降る事がなかったんですね。

ところで、マグダラのマリアは墓に来て、ふたが取り除けられているのを見た時、「ふたがない！という事は墓泥棒にやられた！」と即物的な言い方をしています。

イエスの体が墓の中にない。それで「信者さんたちが、よみがえったと勝手に解釈したんだ」という考えがあるんです。これは先程の秀吉の論理です。そんな事で復活を信じるなんて絶対できません。

見る。即物的見方では本当の事は分からないですね。

3. そこで、ペテロともう一人の弟子（福音書を書いているヨハネ）は外に出て、墓へ行った。
4. 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。
5. そして、身をかがめると、亜麻布（あまめの）が置いてあるのが見えたが、中に入らなかった。
6. 彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。

この見たはセオレオー。セオリーという言葉の語源です。漢字で書くなら“観た”。

これは物理的・表面的な事というよりも観察する・調べる。

日本語の“雲行きを見る”。雲の流れの様子を観察するという意味です。

或いは“相手の出方を見る”。交渉事などで、相手がどんな方針で出て来るのかを観察する・調べる。そして理論的に考えてみる。

シモン・ペテロは「誰かが取って行った」という事に疑問を感じるんです。というのは2つの理由。

1) 亜麻布が置いてあるのを見た。(6)

亜麻布は聖書によく出て来る言葉です。旧約聖書に、ユダヤ人でありながらエジプトの王様から絶対的の信頼を受けて、「これからは政治全般は君に任せる」と主権を託されたヨセフが出て来ます。

彼はエジプト王から3つの物をもらいました。①指輪 ②首飾り ③亜麻布の服。

福音書にも毎日贅沢に遊び暮らしている大金持ちの話があって、「彼が着ていたのは紫布（むらさきぬの）や柔らかい亜麻布であった」と書いてあります。

つまり、亜麻布は非常に高級・高価なんですね。

もし墓泥棒がめぼしい物を盗むために墓破りをやったのなら、高価な亜麻布をそのまま置いて行くのはあり得ない事なんです。遺体を置いて、亜麻布だけ持ち去るのはあり得る事です。

しかし遺体がなくて、亜麻布だけ残して行くのは実にトンマな事で、普通の墓泥棒はしない。

おかしい。マグダラのマリアの判断はおかしい。観察していくと辻褄が合わない。

7. イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。

2) 丸めてあった。

頭の部分はターバンというか、ミイラのようにぐるぐる巻きにされて、体が腐らないように没薬（もつやく）を塗り込められています。

この布切れ、頭の部分がまるで気化したように・蒸発したように・空気のように、スーッと抜けていって丸まっている。その形状のままになっている。

もし頭から布を取るなら、ぐるぐる巻いている状態から長い布になるはずですが、それが巻いたままの状態というのは、まるで包まれていた中身の体がガスのようにシュッと消えていったかのよう。

こんな遺体の持ち運び方、どうやってできるんだろう？おかしい。おかしい。

観察すればするほど不可解な事だったんですね。

8. そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。

この**見て**はエイドン。“心の目で見ると”という意味。漢字では“視る・視る”。

医師が患者さんを診る時「イケメンやわ。」そんなん見てるんじゃない。

「発熱・発疹・痛みの原因は何だろう」と原因の部分を見抜き、原因を突き止めて確信する・確認する。

ここの**見る**は認める・確認するという意味です。

“まれに見る”秀才とは、稀に・滅多に出て来ないけれど、時々自他共に認められる秀才の事。

昔の農家に多く“見られる”間取りとは、昔の農家に多く認められる間取り。確認するという事ですね。

先に墓に着いたもう一人の弟子ヨハネは、そして見て、信じた。

墓泥棒と言うけど、それはあり得ないだろう。でも体がないのは確か。亜麻布は置きっぱなしだし。

なぜ巻かれた物から抜け出たようなままで体がなくなっているんだろう？

ペテロは「不思議だ、不思議だ」と言っているけど…。分かった！よみがえられた…。

“復活なんかない”という前提でこの状態を解釈するので「不思議だ・矛盾だ・あり得ない」となるけど、

“よみがえられた”という前提で見るなら、全部説明が付くじゃないか。

「イエスはよみがえられた」と確認して信じたんです。これを**見て、信じた**。

9. 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。

10. それで、弟子たちは再び自分たちのところに帰って行った。

空っぽの墓を見た後で、ヨハネ 20:19-20

19. その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。

「平安があなたがたにあるように。」

20. こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

墓が空っぽだったので、イエスはいなくなったと推理される。でも推理だけではなく、よみがえったイエスが直々に弟子たちに現れてくださったと言うのです。

その状況は、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていたのに、鍵がかかったままで、イエスがスーッと中に入って来た。復活の栄光の体は肉体だけど透過できるのです。

旧約聖書の預言によると、「メシアは平和の君と呼ばれる」と書いてあります。

「平安があなたがたにあるように。」これは“シャローム・アレイヘム”という普通の言葉ですが、普通の挨拶言葉ではなく、「わたしは怯えている人に、全き平安をもたらすために来るメシアなのだ」というメシア宣言になっているんですね。

そして彼らの所に来て、自分の手と脇腹を示された。傷跡を見せた。

傷口があるという事は霊じゃないんです。体なんです。蜚氣楼じゃない。肉体なんですね。

でも、十字架に掛かっていた時の体ではない。よみがえりの体を持って、イエスは弟子たちに現れた。

しかし、聖書をよーく調べていくと、弟子たちはここでイエスを迎えるはずではなかったんです。

ここの記事に行く前に、少なくとも3度「ガリラヤに行きなさい」と言われているんですよ。

「よみがえったら、あなた方より先にガリラヤに行っているから、そこで再会しよう」と言われているのに行っていないでしょ。という事は「よみがえったら」の後の言葉を弟子たちは信じていない。信じていない彼らにイエスはわざわざ姿を現して、「言っておいた通りによみがえったじゃないか。」弟子たちに確証を与えるために、呼びかけてくださっているんですね。

いきなり完全なクリスチャンになるんじゃないです。信じた後、疑ったり・迷ったり・苦しんだり、ドツタンバツタンやるんですけど、一旦弟子となった者をキリストは見捨てません。どんなにささやかな信仰であったとしても、信仰の火がくすぶって消えそうになったら、それを育てて、くすぶる燈心を消す事なく励まし、信仰を全うできるように育てくださる。それがイエス・キリスト。キリストは死んでくださった方、いや、よみがえられた方だと言っているのですね。

ローマ 8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのためにとりなしていてくださるのです。

イエスが私たちのためにしてくださった事の 1. 死んでくださった。2. よみがえられた。キリストは3日目によみがえってくださった。

イエスが私たちのためにしてくださった事 3. 神の右の座に着き、しかも私たちのためにとりなしていてくださる。

キリストはよみがえって天に帰り、今日この場に参加しておられる皆さんお一人ひとりのために祈ってくださっている方です。

ところで、皆さんは他人（ひと）のために祈った事がありますでしょうか？

例えば家族。息子が受験だからなんとか合格しますように。家族が手術を受けるので成功しますように。身内の事なら一生懸命祈る事があると思いますが、見ず知らずの人のために祈る事がありますか？

ここに立つ前に部屋で準備しているのですが、いつもある方が来て「高原兄（けい；高原さん）、祈りの課題を教えてください」とリクエストを聞いてくださるんですね。

「こんな時間なのに、何を言ったらいいかさっぱり分からない状態なので、与えられるように祈ってください。」「聞いた方が是非心開いて、反応できるように助けてください」などと言います。

すると、そのメモを屋上の部屋に持って行って、他のクリスチャンたちが「祈ろう！」と。

実は祈られています。皆さんは。私もクリスチャンになるまで、自分のために祈った事はあっても、見ず知らずの人のために一生懸命祈るなんてやった事がなかった。

けど、祈ってます。「今日こそ、生けるキリストと出会う事ができますように」と。

その祈りを聞いておられるイエス・キリストが、天で皆さんのために祈ってくださっているんですね。

神の右の座、天で私たちの事を祈ってくださっている。この事を覚える時、私はクリスチャンの人生観・その秘訣があるように思います。

クリスチャンの場合、人生のゴールは地上のどこかではなく天なんですね。

最近、またお手紙を頂く事が多くなりまして、この間、中学3年生が手紙をくれました。

「高原さんはどんな筆記用具を使っているんですか？」え～？そんなん聞いてどうするん？

「僕はジェットストリームしか使えません」と送ったんですけど。

若い人は若い人の悩み、年配者には年配者の悩みがあります。

40代のお父さん・お母さんからお手紙を頂きました。「ストレスがなくなる方法、あるでしょうか？」
「俺の方が聞きたいわ」と思うんですけど。「ストレスがなくなるにはどうしたらいいでしょうか？」
私は聞かれると必死で考えるんです。「俺はどうしてるかな…」とかね。

あ、中学生の文房具の事は前段でした。さすがにそれだけじゃなくて、「自信をつけるにはどうしたらいいですか」という質問でした。これ聞いてるから、ちゃんと言うとかなあかん。

「得意な事には一切手を付けず、苦手な事しかしないなら、やっぱり自信がなくなって来ると思うので、得意な事に1度注力してみたらどうか。」自分の体験を書いて送ったけど、一切返事が来ないという事は、望まれていたような答えではなかったような気がします。

どうしたらストレスを感じなくなるか？私は手放すことだと思います。

自分の思う通りに相手をコントロールしようという事を手放す。

自分の意のままに操ろうという野心に背を向け、自分の期待通りにしようという事から手を放してパー。手放す。手放せば手放すほど楽になりますね。

手放すというのは諦めるという事ではありません。自分でどうにもならない事をどうにかしようとする
とストレスになりますね。どうにかできる事に一生懸命になっていったらいいけど、どうにもならない
事に一生懸命力を使っても、不毛の努力で終わるからストレスです。

「どうにもならない事はどうにもならない事なので神に委ねる」と受け入れる。これは諦めるのではない。

クリスチャンにはこの地上は旅の最中。GoTo トラベルや。クーポンも貰ってないのに。

GoTo トラベルで色んな人と出会っては別れ、出会っては別れ。

旅で「この家いいなあ」とグューツと握っても、それはよその人の家なんやから手放すじゃないですか。
ここは私の永久の住み家ではない。私の永久の住み家は天国であるという。

そして、手放していくほど楽になるけど、「これを手放したらもう私じゃない」というのがあるじゃない
ですか。これは手放せないというもの。それがその人の生きる理由です。

それが、その人のアイデンティティーだと思うんですね。

私の場合、絶対手放せないのはキリストに対する信仰です。それ否定したら、もう私は私じゃなくなる
と思うんです。だから、これは手放すものじゃない。手放す事はできない。

でも、手放してもいいものはたくさんある。なぜなら、ここに永久にいるわけじゃないから。

最善以下を絶対になさらない方にお任せして、この方は1番良い事をしてくださると信じて、ひたむきに
前に向かって進んで、何年かして振り返った時、「えっ！神様がこんな風に成し遂げてくださった！」
というのがよくあるんですね。

人生は自分一人で完成させるものじゃなく、神と神を信頼する人間が協力関係を持って、共同制作でつ
くり上げていく芸術作品のようなものだと思うんです。

神様は私たちに「さあ、一緒につくって行こうよ」と呼びかけておられるのではないかと思いました。

150年ほど前に、私の大好きな伝道者でD.L. ムーディ(1837-1899)という人がいました。

ものすごい太ってて高血圧で亡くなった。僕はこの人が大好きで。

11 人兄弟の末っ子やったか、13 人兄弟の下から 3 番目やったか、どっちか忘れましたが、17 歳でクリスチャンになって、まっすぐにキリストを見上げて進んで行きました。

ある時、親友と 3 階の部屋でコーヒー飲みながら話してて、その親友が（彼もクリスチャン）、「神様は、『神様のために何も要らん。私の財産はイエス・キリストだ』と言うような、ご自分の思いのままになる人を通して、どんなに大きな事をする事ができるだろう。」

そしたらムーディは「キミ、僕はそうになりたい。もし神がここから飛び降りろ言うたら、俺やるで」と言うたと。そんなん言うワケないけど、なんか、この人好きなんですな。

最後召される時、人差し指を天に向けて「あそこへ行くんだー！」と言って去ったという。

もう最高じゃないですか。

彼がアイルランドに招かれて伝道旅行中、友人と道を歩いていたら、1 人の少年がスズメをいたぶっているんです。友人が「そんな弱い動物いじめてどうすんねん。逃がしたれよ。」

「これ捕まえるのに 3 時間くらいかかった。今遊んでいる最中やから、横から口出しせんといて。」

「でも、そんな鳥をいたぶっても、何の役にも立たないでしょ。」「ほっといてよ。」

すると友人が「なら、そのスズメをキミから買う。金払うから売ってくれ。」「だったらいいよ。」

スズメを受け取って手を開いたら、羽ばたいて行った。

私たちは死というものに握られていたけど、キリストが十字架の上で、自由になるための代価を払ってくださった。もう既に払ってくださったんです。なので、飛び立つのは本人に掛かっているんですな。

手のひらを開いても、そのままじーっとしてる、そんなスズメいないですよな。

自由になったら、それはチャンスじゃないですか。

私たちが罪と死から自由になるための代価は既に払われています。

後は私たちが「イエスを救い主として信じます。どうぞ、私を救ってください」とイエスに告げる事です。もし迷っている方がおられるなら、この後、周りのクリスチャンに相談してみてください。

手助けしてくれます。そして、是非キリストとしっかりと繋がって、新しい人生に走っていただいたら幸いです。心からお勧めして終えたいと思います。

^ ^

- * 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」
- * ラジオ番組「[聖書と福音](#)」（約 15 分）も是非どうぞ。YouTube もあります。
- * YouTube「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi